アイスプラネット ⑵

椎名 誠

（「僕」はぐうちゃんの「ほら話」が大好きで、よくぐうちゃんの部屋に話を聞きに行きます。ある日の夕食後、アマゾンにいるという、馬を飲み込んでしまうアナコンダや、三メートルもあるナマズの話を聞いていた「僕」は、なんだかばかばかしくなり、気のない返事をしました。）

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、①きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

　ぐうちゃんは話の作戦を変えてきた。宇宙の話は好きだ。例えば宇宙には果てがあるのか、とか二重太陽のある星の話とかだ。ところが、ぐうちゃんの話は、地球の中の宇宙の話だった。

「北極には、一年に一度流氷が解けるときに小さな氷の惑星ができるってイヌイットの間ではいわれている。アイスプラネットだ。めったに現れないので、それを見た者はその年いいことがいっぱいあるといわれている。」

「童話か何かの話？」

「いや、本当にある話だよ。見ることのできた者を幸せにするという、地球の中にある小さな美しい氷の惑星。いい話だろ。」

「やっぱりありえねえ。俺、風呂の時間だし。」

　ぐうちゃんは続けて話したそうだったけれど、母親が風呂に入れと大きい声で呼んだので、②それを口実に逃げることにした。ぐうちゃんは、やっぱり今どきの中学生をなめているのだ。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「きれいで小さい宇宙の話」とあるが、これはどのような話か。適当なものを選びなさい。

ア 宇宙に果てはあるかという話。
イ 二重の太陽をもつという星の話。
ウ 北極にできるという氷の惑星の話。

〔　　〕

(2) ぐうちゃんが話す「アイスプラネット」の説明として、正しいものを選びなさい。

ア 北極で一年中見られるもので、流氷が解けるときにできる。
イ イヌイットの間で伝わる話で、見た者を幸せにするという。
ウ 地球の外にある小さな美しい氷の惑星で、めったに現れない。

〔　　〕

(3) ——線②「それを口実に逃げることにした」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア 母から風呂に入るよう言われたことを言い訳に、話を切り上げることにしたということ。
イ ぐうちゃんと話を続けたかったが、母が呼ぶので話を続けられなくなってしまったということ。
ウ アイスプラネットの話がいい話だとは思わなかったが、本心を隠して言い逃れることにしたということ。

〔　　〕

(4) アイスプラネットの話に対して「僕」はどのように感じたか。適当なものを選びなさい。

ア 今まで聞いたこともない話で、興味深く感じた。
イ 信じられない話で、自分を子供扱いしていると感じた。
ウ 引き込まれるように美しい話で、童話のように感じた。
エ 怪しい話だが、いつものようにおもしろいと感じた。

〔　　〕